LUZ の熊野古道案内

2007 年　12 月　上

１２月１７日　～　31 日

je2luz.exblog.jp

目次

２００７年　12 月

12 月１７日　町の片隅　2　裏塀
12 月１８日　町並み　消えなかった電線
12 月１９日　木本町西川町　お屋敷街？
12 月２０日　山と海
12 月２１日　何処を見る？　あなたの感性
12 月２２日　海と山
12 月２３日　暖地　寒地　両方あり
12 月２４日　記念通り　いこらい市
12 月２５日　迎春準備　木本神社
12 月２６日　ご来光は？
12 月２７日　初詣は？年末に予約は？
12 月２８日　広報くまの　人口動態　んん？？？
12 月２９日　宅地分譲　市内金山町
12 月３０日　明日の晩は・・・１００円の価値
12 月３１日　行く年・・・２００７年

2007 年　12 月　17 日

熊野の旅　町の片隅　2　裏塀

街の片隅に残る時代時代の面影もその時代から遠くなるにつれて、荒れたり、崩れたり、邪魔になって壊されたりします。

裏通りに面した所に多く残るのは、壊れてしまって用を成さなくならない限り、わざわざ壊すことも無いからかと思います。

木本町の場合、裏通りには車も入らない『せこ』と言われる道が多いのです。

車も入らないので、その裏口を使うことも少ないのです。そして、車社会になったときでも、塀を取り壊して駐車場に改造することも出来ませんでした。つまり、塀の類は温存されることになったのです。

この塀もそうした『せこ』の一本に面しています。通り抜けることは出来ますが、この道を通って特に近くなる所も無い物です。反対側は『要害山』という岩山です。

かつてはこんな誰も通らない路地に中に『飲み屋』があり、結構繁盛していたようです。

田舎町ですから、何処にあっても酒飲みには知ってもらえますからね。

その時代、『料亭』を除いて『飲み屋』の類はまっとうな商売とみなされず、こうした裏通りで営業する所が多かったようです。

昭和４０年代頃まではやったと聞く飲み屋はこんな『せこ』にあるのばかりでした。

少し。怪しげな、秘密的なふんいきがよかったのでしょうね、都会でも、そうでしたから…

しかし、狭い木本ですから、女将が誰で、客が誰何だかはバレバレなんですが・・・

このレンガ塀も出来た時は『モダン』？『モダーン』？な物だったと思います。

今ではこのように草木が生い茂ってきて、荒れ果てた雰囲気になって、趣があるようになっています。

この屋敷の元の持ち主は…と考えるのですが、私が住んでいる屋敷が外科医院だった頃にはここに入院病棟があったような気がします。その家系は木本で一二を争う名門で医者一族でした。多分、その方の持ち物だった頃に作られたものなのでしょう。

人目につかない裏塀に凝る・・・羽織の裏地に凝った時代の感覚なのでしょうか・・・古き良き時代の遺産でしょうね、

カメラは**センチュリー・グラフィック＋スーパートプコール６５ｍｍ**

Tags:熊野市 昭和 モノクロ

by **je2luz** | 2007-12-17 11:10

2007 年　12 月　18 日

熊野の旅　町並み　消えなかった電線

木本と言う街は、本当に狭い町です。

熊野市駅、旧紀伊木本駅も木本町内ではなく、旧有井村井戸にあるのです。

海から山方向に 500m、長手方向でもせいぜい 700mと言うようなものです。

この狭い街はほとんどきちんとした縦横の道で区切られているので分かりよいものです。

そのなかで、木本発祥の地と言われる、『親地町』周辺だけは四角く区切られているとは言い難く、ごちゃごちゃしています。おそらく、大昔、『坂上田村麻呂』が攻めてきた頃には集落があったのでしょうから、自然発生的にできて、なし崩しに大きくなっていった場所だと思います。

それ以外のところは、『奥熊野代官所』をはじめ、明治以降の行政も含めて、『都市計画』を立てて道を整備して家は建てられたものと思われます。

こうして、木本には全く様子の違う街が二ツくっついています。

今回の『世界遺産』便乗工事の石畳化では、本町通をその対象にしました。

実に整然とした、人工的な合成石による石畳道が出現したわけですが、普通はこうした本格的な改装をするとなくなるはずの電線類は残りました。

高圧送電線・200Ｖ送電線・電話線・ＣＡＴＶ・これだけの線が上空に張り巡らされました。そのくせ光ファイバーは走っていないようです。家庭用引込み線も、今回全面的に改修されたので、三本を束にしたものすごく太いのが走りますから、写真にするとものすごく目立ちます。

普通に町並みを撮っても、こうして屋根を撮ってもこれから逃れることは出来ません。

どうせ、ほとんど人の通らない道に大金を掛けたのですから、ついでに電線の地中化もすればよかったのに・・・

これだけあると、デジタル処理で消すとしても大変ですね。それに、それでは『写真』ではないですしね。

いやいや、文句を言わないで、全国の皆さんのご協力で、『市街地活性化』のために、立派な石畳道路を作っていただけたのですから、地元民としたら『感謝・感謝』です。

ぜひ、皆さんも一度は歩きに来てください。

カメラは　　センチュリー・グラフィック＋バウシュ＆ロム 88mm

Tags:熊野古道 世界遺産 モノクロ　　by **je2luz** | 2007-12-18 10:50

2007 年　12 月　19 日

熊野の旅　木本町西川町　お屋敷街？

熊野市木本町は発祥の地『親地町』、海岸沿いに伸びる『本町通り』、昭和になってから都市計画で作られた『記念通り』、その間に縦横に走る横道やセコによってほとんどが形成されています。

そのほかには山手から流れ出る小さな川の所に『切立』と『新田』と言うところもあります。

もう一箇所、旧国道４２号線に面した木本町の外れの方に『西川町』と呼ばれる一角があります。正確に言うと、旧・旧国道と旧国道もここを抜けて、ここで分岐していた所です。

山間部、飛鳥方面や山越えでの尾鷲方面への道と、『松本峠』を越えて海岸沿いの泊・波田須へ向かう道か通る木本の出入り口に当たります。

ずっと取り上げてきている『奥川邸』…「紀南ツアーデザインセンター」も、この一角にあります。

近年、都市計画で道が広げられ、二車線に両側歩道つきの明るい通りになっていますが、元は昔々の道らしく、一車線の狭いものでした。

国道時代にはここをバスやトラックも走っていました。軒が張り出しているし、道は狭いし、道路の脇は屋敷ごとにのこぎりの歯のようにでこぼこしているし、運転手にとっては魔の区間でした。対向する為に一杯よれば背の高いバスやトラックは屋根を削るし、背の低い車はのこぎりの歯の部分の溝に車輪を落とすし…

昭和４５年までそんな道が国道でした。おまけに、この道路は県立木本高等学校の通学路で１０００人あまりの生徒が登下校していました。それに加え、熊野市立木本

保育所の通園路…まさに、魔の道路でしたが、狭すぎるので、溝に落ちたとかで傷をする人はありましたが、大きな事故は無かったものです。

今の道路が出来たのは平成に入ってからですが、片側の住宅に協力を頂いて拡幅しました。

当初は両側に協力いただくなんて話でしたが、片側で済ますことによって、交渉も半分で済みました。ただ、市街地ゆえに前を切られても後ろに下がれない家もあり、難航はしましたね。

この、西川町の一角は、『親地町』と並んで、古くから開けた一角なので、木本の旧家がお屋敷を構えていた所です。『奥川』『前川』『中西』…名門が固まっていました。

片側の立ち退きで済ませたので、数少ない木本の古い建物が温存されることに成りました。

この家もその中の一軒です。

熊野市駅から『松本峠』に向かって歩いてゆくと、メインストリートの『記念通り』を抜けて、道が『西郷川』に向かって下り坂になったあたりです。

100mほどの間に、明らかに『だんなし』の家と言う構えの古い家が数軒並んでいます。

向かいっ側にも格子のはまった家などもあったのですが、今はそれらは見られません。

この一角の旧家は本町筋の家より一回り古い家柄のようです。

カメラは　　センチュリー・グラフィック＋バウシュ＆ロム８８mm

Tags:熊野市 熊野古道 モノクロ

by **je2luz** | 2007-12-19 10:43

2007 年　12 月　20 日

熊野の旅　山と海

日本と言う国は、一部の平野部を除いて、ほとんどのところは、『山』か『海』があります。

紀伊半島などはその典型で、山と海以外の田畑は猫の額のようなものです。

地図をご覧になれば、ほとんどが濃い緑とか茶色で塗られています。申し訳程度に、海沿いのあちこちに薄緑の平地をちりばめてあります。

かつて、通産省でしたか、大臣室にお邪魔した時、巨大な立体地図を見てそのことを実感しました。　こんな険しい地形が続くのは、三陸と紀伊半島ですね。

険しい地形だと言うことは、山で生きるか海で生きるかしかないわけです。

木本と言う町、新宮と言う町、ともに紀伊半島の南部できちんとした町の形態をなした、数少ない所です。そして、それを支えてきたのは、後ろに控える広大な面積の『山』です。

『神々が住む』と信じられてきたほど、奥深かい山々が生活を支えてきたわけです。そして、その山人達を顧客に海人は魚を売ってきたわけです。

今や、『山』は金を生む場所ではなくなっています。育て上げた美林がまさに二束三文で取引され、もうすぐ美林になろうかと言う育成途中の山は放置され、荒れるに任せています。

雨量が多く急峻な日本の山は人手で管理しないと、土は流れ、痩せた岩山になってゆきます。その過程では、山崩れ、洪水を引き起こします。

少し前に、群馬県とかの山があれたことで東京湾に流木が大量に入ったことを報じていましたが、下流に東京のような大都市のある川の上流には目が向きます。しかし、熊野川のように、下流にあるのがせいぜい『新宮市』程度の所には目が向きません。せいぜい、『国道がふさがる』事くらいしか関心を寄せてくれません。その道路も、１６９号の山崩れのように長期にわたり通行止めになっても、都会の人にも日本の大勢にも全く関係が無いですし・・・

かくして、紀伊の国、『木の国』は滅びていっています。

そんなに大きな山主が居たわけでもなし・・・
たくさんの山主がそれぞれに頑張って美林を育ててきた熊野も最早林業の町ではありません。
このような古い家だけが『林業家』が元気だったことを忍ばせてくれます。
カメラは　　クラウン・グラフィック＋シュナイダー・ジンマー２１０ｍｍ
Tags:熊野川 熊野市 モノクロ　　by **je2luz** | 2007-12-20 10:39

2007 年　12 月　21 日

熊野の旅　何処を見る？　あなたの感性

観光地、名所に行くと何処を見ながら歩くでしょうね。
はっきりとした、『見る物』があって、それを見れば良いと言うような『美術館』や『博物館』の様な所もあります。
世界遺産でも、対象物が絞り込まれたものもありますが、ここの『紀伊山地の霊場と参詣道』と言う物は、『文化遺産』には違い無いのですが、紀伊半島から吉野の山地全域を網羅するような広大な面積に点在し、『熊野三山』『高野山』『吉野のお寺』など以外は、取り立てて、『これが世界遺産だ！』と言うものはありません。
広大な山々、それを越えて霊場にすがった古人の気持ちと言うものを偲ぶのが『参詣道・熊野古道』なのです。
つまりは、何も形が無いからこそ『世界文化遺産』なのでしょう。
それなのに、ガイドブックなどでは、無理やり『観光スポット』を作り出してきているようですね。
これは何も今始まったことではなく、『観光』と言うものが産業になった頃からのことです。
地元の人が聞くと恥ずかしくなるような『伝説』や『名所』が出来ていたりします。
『見所』から『見所』へ大急ぎで移動して…それも、旗を持ったガイドさんに先導され…
かつて、東京でも『はとバス』なるものに乗ったお登りさんが何も見る余裕が無く、ひたすら自分のバスの番号を書いた旗を見失うまいと追いかけていたものです。
さすがに、そうした光景は熊野市の様にマイナーな場所では見られませんね。鬼ヶ城では時間制限されて慌ててトイレに行き、千畳敷にも行かないでバスに駆け戻るようなお客さんも見かけますが…
飯を食うような食堂も、一息つくような喫茶店もほとんど無い熊野古道のコースですから、急ぎ足になるのも分かりますがね。
しつらえた休憩所でもしまっているときが結構あるのも怒らないでください。
せっかく税金を投入しても、運営費用など捻出できるほどのお客さんは通らないのですから…ボランティアに支えられるか、さらに際限なく税金を投入するかしかないのですからね。
『熊野古道』に来られたのなら、熊野古道らしく、道端に座り込んで疲れた足をさ

すり、何も無いことを楽しんでください。
町場に入っても、観光地ではなく、通りすがりの町そのものですから、きょろきょろしてご自分の感性で見るものを探してください。面白いものを見つけられるかどうかはその人しだいかと思います。

カメラは　　**エンサイン・セルフィックス 820（英国）**

Tags:熊野古道 世界遺産 クラシックカメラ　　by **je2luz** | 2007-12-21 11:12 |

2007 年　12 月　22 日

熊野の旅　海と山

一昨日のタイトルの逆です。
昔は辺地ゆえに地元売り用の魚を捕る漁業が主だったはずの、熊野の漁業も結構大規模化して、市場を外に求めるようになっています。
古代には、漁師の船は浜に上げるものだったはずです。
木造船を浜から押し出し、帰ってくればロクロで浜に巻き上るのが日課でした。
そんな古い時代には、砂利浜や砂浜のあるところが漁村としては良い所だったわけです。
私が学生だった昭和３０年代終わりごろまでは、ここ熊野の七里御浜にも一杯船が並べられていて、地引網漁などに使っていたものです。
我が家のすぐ前の浜にも長く木造船が揚げられていました。今から、２０年余り前に姿を消したように思います。
房総九十九里浜では、ここより一回り大きな船が砂浜に上げられていて、『おっぺし』と言われる、漁師の女房たちが上半身裸で船を押し出していたものです。
そういう光景は日本中から消えて行き、今では防波堤と荷揚げ場のある『漁港』が

ないと漁師町にはならないようです。

漁の方法も随分と進歩しています。
網がクレモナとかの耐久性のあるものに変わりました。そのために、編み直しと言う作業も大幅に減っています。
何より変わったのは、『魚群探知機』の登場でしょうね。
この『魚探』の登場で、闇雲に走り回っていた漁船が、網を下ろす場所をかなり絞り込めるように成りました。
戦後の食糧難で乱獲した近海の魚は漁獲高が激減していたのですが、一時的に持ち直しましたね。
しかし、今度は本当に『根絶やし』に近いことが起き始めます。
昔から、捕れる時には船一杯捕る…と言うやり方で来た漁師も資源を少し考える方向に向きつつあるようです。
魚探があり、魚がいても、魚が近づかなければ捕れません。
海は広いです。
『冷水塊』『温水塊』『黒潮蛇行』『海水温上昇』…漁場はどんどん場所を変えます。
今年はこの沖のサンマの漁場が少し遠いようです。そこにやってきた、燃料高騰・・・
コストから価格を決めるなんて出来ない田舎の産物の一つ、水産物ですから、捕れても採算割れに成りそうだそうです。
捕れすぎ？捕りすぎ？で、あちこちに『サンマのすだれ』が出来るのも考え物ですが、あまり少ないのも…
そのためか、今年は魚屋さん以外で軒先に『サンマのすだれ』が掛かっているのを見かけません。豊漁だと、こんなパラパラではなく、『どうやって食べる気だろう？』と、人事ながら心配になる風景が広がるのですがね。

カメラは**コダック・レチナＩＩＩｃドイツ）**

Tags:熊野市 熊野の味 クラシックカメラ

by **je2luz** | 2007-12-22 11:06

2007 年　12 月　23 日

熊野の旅　暖地　寒地　両方あり

熊野は暖かい所です。

紀伊山地はものすごく寒い所です。

一山越えると…と、言うほど山は高くありません。

たかが 500mから 800mほどの山なのですが、切れ目無くつながって、海と内陸を切り離しています。この繋がりが、その裏側からつながる山間部と海岸線の温度差を生んでいます。

この季節になると、海岸線の夜間気温と一山向こうの海抜たった 300mほどの飛鳥町の夜間気温では４度から５度の差があります。

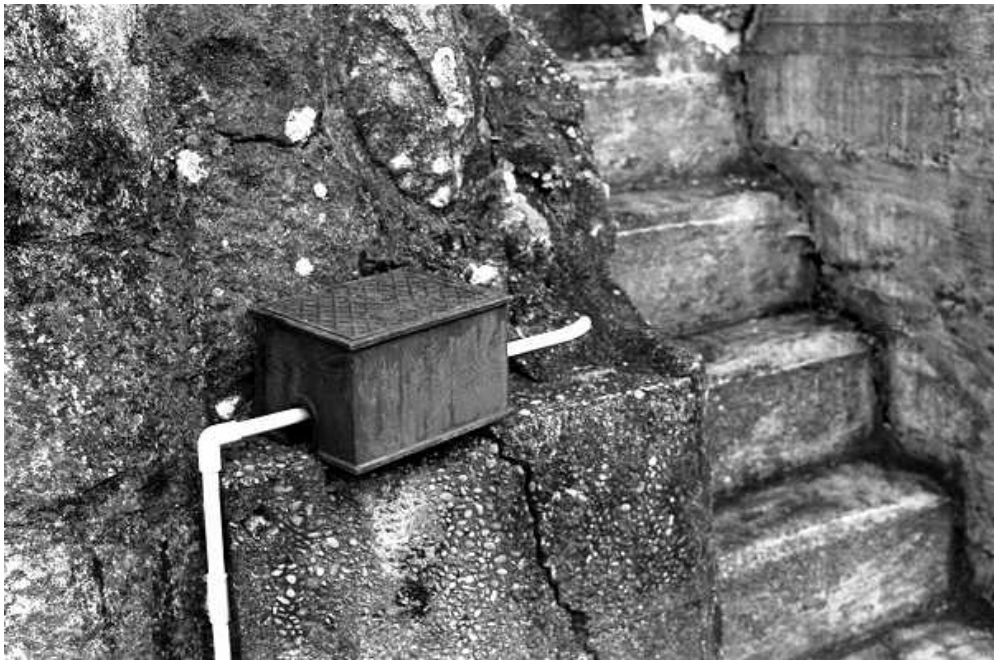
国道４２号線で紀伊半島をどんどん南下してきて、長いトンネルを抜けて、一番南に近い熊野市に入ったとたんに路面が凍結していてスリップして大破…なんて気の毒な方もたくさん居られます。

つまり、『熊野は暖地』なのではないのです。

『南紀の海辺は暖かい所』なのです。そして、『紀州の山は寒い所』なのです。

この暖かさは、目の前に流れる『黒潮』のおかげです。

日本地図は長方形の紙に納めるために少し傾けて印刷されています。そのため、紀伊半島と言うのは東京などよりはうんと南には成りますが、西方向で言うとせいぜい山口県のあたりに過ぎないのです。山口より暖かいのは、黒潮と、寒い北風を遮断する紀伊山地のおかげなのです。



この写真がここ、海岸線が暖地の証拠です。

上水道の引き込み管と水道メーターです。

この部分の工事は市の水道部が行う部分です。

石垣で固められているから地中に入れなかったとは言え、何の断熱もしないで配管してあります。

同じ熊野市内でも、山間部ならその年の内に破裂します。

最近は市道や県道の側溝が整備され、その工事の時に上水道の引き込み管はきちんと地下に埋められてゆきましたが、少し前までは、引き込み管を直したりすると、側

溝をむき出しのままで横断して屋敷に入ったものが結構見受けられたものです。
　この周辺で、こうした配管がパンクしたのは、もう２０年以上前になると思いますが、大寒波が襲来してこの辺でも零下 10 度近くまで落ちた年だけです。
　かく左様に暖かい所なのですが、ここに暮らしている人にはやはり冬は寒いようです。ストーブを焚き、コタツにかじりつくようです。
　ほんの半世紀足らず前まで、日本人はもっと耐えることを知っていたのですがねえ・・・
カメラは　　コダック・レチナＩＩＩｃドイツ）
Tags:熊野市 国道４２号 モノクロ　　by **je2luz** | 2007-12-23 11:34

2007 年　12 月　24 日

熊野の旅　記念通り　いこらい市

　数年前から、毎月第 4 日曜日のお昼過ぎまで、熊野市のメインストリートの記念通りで行われるバザーのようなイベントです。
　『いこらい』は大体読んで分かるかと思いますが、『行こうよ』と言う言葉のこの辺版です。
　定期的の開催され、スーパーオークワの向いっ側、木本小学校沿いにおそろいのテントを立てて、近在のお店や団体が出店をしています。
　参加する数は毎回違うようですが、さほど多くはありません。
　大きなイベントでもなく、最早、背後地、見込み客となる近郷、山間部などの人口が激減、老齢化していますから、こうしたイベントに釣られて、『行って見ようかいのし…』と、人が集まる情勢ではないのです。
　オークワさんも店の前に平台を持ち出して野菜の特売をやって協賛していますが、この日だから取り立てて客が多いと言うほどでもなさそうです。
　記念通りの商店組合がやっているのだと思いますが、継続するのも大変かと思います。
　かつては、フリーマーケット的な店も少しあったときがあるように思いますが、客層がそうしたものを楽しむファミリーではないので段々無くなってゆくようです。
　狭い歩道上ですし、地べたに座り込んで品物を広げることも出来ませんし、しゃがみこんで物色できるスタイルでもないのがそうしたものには向かないですね。
　一ヶ月に市内全域で生まれる赤ん坊が 10 人ほど・・・と言う町が広い熊野市です。こうしたところが市場としてどんなものか、都会の人には一寸想像し難いと思います。
　山手線内側ではなく、環八内側より広い所に二万人が住んでいて、赤ん坊が年に 200 人足らず…です。
　それでも、がっぱってやっているのを見て、近所の人が『サンマの寿司』『サンマの丸干し』『漬物』などを買い求めています。
　目の前のオークワや魚屋でも売っているのですが、雰囲気的にこうした所で買う方がおいしそうにも見えますからね。

カメラは**コダック・レチナＩＩＩｃ　独逸**）

Tags:熊野市 クラシックカメラ モノクロ

by **je2luz** | 2007-12-24 11:42 |

2007 年　12 月　25 日

熊野の旅　迎春準備　木本神社

お正月行事が盛んとはいえないこの地方なのですが、スーパーにも『しめ縄』や『鏡餅』が姿を見せました。

熊野市も今ではしめ縄の産地になっています。

飛鳥町では二十年ほど前からしめ縄作りをやっていますが、これも、季節限定の仕事なので正業に成りえず、老齢化が進んでいるようです。

『しめ縄』も地方によって随分違いがあるようです。この辺のしめ縄は正式にはど

れなのかは知りません。ただ、熊野産だけではなく、色んなのが店頭に並んでいます。好みで選んでいるようですね。

昨日、久々に木本神社の写真を撮りに出かけました。

出かけたといっても、自宅から 500mほどしか離れていません。位置的には木本の両端に近いのですが、何せ町が狭いですから…

35mm カメラだけの時は自転車ですか、大きいカメラを持ち出すとこの距離でも車で移動するほど無精者です。

関が原の頃の棟札が残されている『木本神社』ですが、およそそれらしい雰囲気が無いのが不思議です。

敷地も土地の無い木本と言う事もあり、石垣で囲まれた狭いものです。

神社、鎮守様などと言うものは、大体一区画閉めているものですが、ここは小さな町の一区画をも占めていません。これも不思議な物です。

初詣に備えた準備が始まっているかと思ったら、まだ、境内は始まっていませんでした。狭い境内で、鳥居から拝殿まで十数メートルしかないのですから、見えるところの準備ってそんなにあるわけでもありません。

初詣客も木本町の人の一部が出かけるくらいで、『花の窟神社』のように遠来の人が居るわけではないのです。それでも、氏子総代さんとかは拝殿に詰め、境内では火を焚いて初詣客を待ってくれているようです。

私はここの生まれですから、『木本神社』の氏子のはずです。一度くらいは・・・と、思うのですが、いまだに行っていません。

2008 年の初詣の写真を掲載できるかどうか・・・『乞うご期待！』とは言いかねます。

Tags:熊野市 モノクロ クラシックカメラ

by **je2luz** | 2007-12-25 11:14

2007 年　12 月　26 日

熊野の旅　ご来光は？

年末に来て天気がぐずついています。

取り立てて降るわけでも無いのですが、どんよりと曇ってしまいました。

仕事仕舞いから家の片づけで忙しいはずの時期に一雨降るとか…年末から年越し、新年へと、きちんとスケジュールをこなす方にはお気の毒な回り合わせのようです。

大晦日の頃には持ち直すようですが、いわゆる、『冬らしい天気』にはならないようですね。

低気圧がこの沖辺りをうろうろと…

2008 年のご来光は拝めない所が多いかもしれませんね。

熊野市から新宮までの『七里御浜』は『初日』が海から上がるので、ご来光を迎える絶好のスポットとして、結構、遠くから来られる人も多いのです。

日本最古の神社の『花の窟神社』で『初詣』を済ませ、そのままその前の浜で『ご来光』を迎えると言う寸法です。

寒い時期と言っても、気温が零度以下になることはほとんどありませんから、割りと楽な物です。

かつては、すぐ横の『獅子岩』のところに仮設の露天風呂を作り、紀和町の温泉などを運んできて初日の出と同時に行われる『初泳ぎ』の人のための風呂を作っていました。

暮れの『獅子岩ライトアップ』、大晦日の『年越しの花火』、元旦の『初泳ぎ』と、一連の行事は『熊野無線クラブ』と言うアマチュア無線の団体がやっていたものです。

アマチュア無線の精神に乗っ取り、『金銭上の目的ではなく、もっぱら、個人的興味にもとづく…』と、言うことで、すべて勤労奉仕、持ち寄りでやっていました。

それが少し評判になると、公的な物が介入したがり…予算をつけてお金が解決すると言う方向になり…つまりはやる人の熱意が無くなりましたね。

ご来光と言うやつは、お天気任せです。

午前 7 時ごろに晴天であること…

上空ではなく、水平線上に雲が無いこと…
と、言うことです。
完全な冬型になれば良いのですが、来年の初日は・・・・・・
その点、『初詣』と言うやつは良いですね。
雨が降るとつらいですが、何も除夜の鐘と同時に参らなくても良いし…曇って居るくらいの方が暖かくてよい…なんて者ですからね。
まあ、天気図を見て、運試しに初日の出を迎えに出かけてみるのも良いのではないでしょうか？

クラウン・グラフィック＋テッサー135mm f 4.5

Tags:熊野市 七里御浜 モノクロ

by **je2luz** | 2007-12-26 11:45

2007 年　12 月　27 日

熊野の旅　初詣は？年末に予約は？

日本は元々、多神教の国だったようです。

土着の多神教の所に色んな仏を抱え込んだ仏教が入って来、儒教だ基督教だ…後へ後へ入ってきました。

もちろん、外来種だけではなく、自前でもどんどん神様を作って行きました。今も作り続けているようです。

お葬式は仏式で、結婚式は基督教で…それでも、初詣は神式で…と言う人が多いようです。

それと言うのも、仏教のお寺が、教養の中心・集落の知恵袋・悩みよろず相談所ではなく、葬式業に成り下がってしまって、『縁起の悪い所』的なイメージをもたれるようになったせいもあるのでしょうね。

私の所では、むかし、きちんと初詣をしていた頃は、檀家寺に参って除夜の鐘を突きながら新年を迎え、次に近くの神社に参って帰るのが慣わしでした。

近年ではどこにも参らないようになっていますがね。

神社に初詣する場合、氏神様、鎮守様におまいりするのが普通だったのですが、都市に人間が流れ込むようになると、『氏神様』との縁が切れてしまい、有名な神社などに参るようになっていったようですね。

近代になると、「行く年来る年」なんて番組に始まり、ニュース番組などでも、『明治神宮』『熱田神宮』『伊勢神宮』『住吉神社』…等、超有名神社の初詣風景が報じられるようになり、『みんなが一緒』が大好きな日本人は『初詣もみんなと一緒』…と、ばかりにそうした所に押しかけるように成りました。

伊勢神宮などは伊勢から 100Ｋｍも離れたあたりから渋滞する有様です。

このあたりでも、各地区の鎮守様はポツポツですが、熊野三山はそれぞれ混雑します。

なかでも、『那智大社』と『青岸渡寺』が並んでいて、お寺と神社の両方に一回で初詣できろ『那智山』は最高人気です。

おまけに、ここは那智駅前で国道４２号線から別れてからは事実上行き止まりのコースです。さらに、上に登るとまるで駐車スペースがありません。混んで当たり前なのです。

そんな時…『こんなに客が来るんだから、駐車場くらい作ればよいのに…』と、言う声が聞こえてきます。熊野の『大花火大会』と同じですね。年に一回のために…

元旦早々、そんな停滞する所のお尻に付かなくても…

近所のお宮さんにお参りしておいて、うんと時間や日にちをずらして有名神社にお参りするほうが賢いような気がします。

昔、明治神宮に初詣に行きましたが、川のように流れる人並みで、まともにお願いすることも出来ない状態でした。

きちんと、お願いが出来なかったからでしょうか？一緒に行った子と結ばれること

はありませんでした。あんなに忙しい時に、ちょこっとの賽銭でお願いしても、神様は聞き届けることも、メモを取ることも出来ないでしょう。
　年末は暇そうですから、そんな時におまいりして、ご利益の予約をしたほうが割引料金で受け付けてくれるかもしれません。
　ただ…勝浦温泉とかは正月の頃は少し高いとか言いますね。

クラウン・グラフィック＋テッサー135mm f 4.5
Tags:世界遺産 国道４２号線 モノクロ　　by **je2luz** | 2007-12-27 11:06

2007 年　12 月　28 日

熊野の旅　広報くまの　人口動態　んん？？？

来年、２００８年新年号の熊野市報より・・・

お誕生　　9
おくやみ　　30　　（１１月１１日～１２月１０日）

全くさみしい数字です。
今月の亡くなられた方には３８歳と５８歳と言う、働き盛りの方が含まれました。
９０歳以上が６人と、やはり高齢者が多いですね。
この数字から見ると、自然増減は　－２１　なのですが・・・

人口　　２１．１８２　　（+1）
　男　　９．８６７　　（－22）

女　　１１．３１５　　（+23）
世帯数　10.190　　（－7）　　（１２月１日現在）

期間で算出するものと、日にちで切るものの差があるとは言え、同じ期間内のものです。

自然減で－21 なのに、結果は+1 なのです。

大きな町なら変動の範囲ですが、ここに現れている、女+23 はどうしたことでしょうね。

昔は、メリヤス工場が出来たとか、ハーネス工場が出来たとか言って、他所に行っていた娘を呼び戻すと言うこともあったのですが、今では市内各所にあったその手の工場は壊滅していますし、新しいものができてと言う話も聞きません。

増えたと言うことは良い事とも言えますが、女ばかりの増加では…

養老院が出来たという話も聞かないように思えますがねえ。

万一これが、都市部でのワーキングプアーのあおりで、娘さんたちが正月前に見切りを付けて帰って来たのだとしたら…帰ってきても、嫁に行く先があるのやら…

ここでも、他所の田舎同様、ほんの少し残った男の子には嫁の来てが無くて困っているのも確かです。

片や、嫁に行く先のない娘さんも居るのです。

今では、やたらと縁談を世話するお節介なおばさんも減ってしまいました。昔と違い、下手に世話すると大変ですからね。

遊んでも、結婚は別…と言う考え方は、都会も田舎もあまり変わらないようですしね。

外国から花嫁さんが少しずつ来ているようです。これも、田舎町共通の現象のようですね。

知り合ったのが、外人さんで、好きになってしまったのなら、苦労も楽しいかもしれませんが、お見合い？で一緒になって、言葉もほとんど通じなくって…

文化の違い、食生活の違い…さぞかし、お嫁さんも大変でしょうね。

夫婦の間の万国共通のこと以外は意思の疎通に事欠いて…夢見た日本と現実の日本のド田舎暮らしとのギャップもあるし…

それにしても、今月の数字は一寸不思議な物です。

Tags:熊野市 紀和町 モノクロ

by **je2luz** | 2007-12-28 12:08

2007 年　12 月　29 日

熊野の旅　宅地分譲　市内金山町

昭和の大合併をして、人口も特例法をクリアーする３００００人を越えていた熊野市の人口も、増えることなく、日本の高度成長に合わせて労働力をどんどん供給し続け、減少の一途をたどりました。

最初の頃の昭和３０年代は高校進学率 10%台でしたから、中学を卒業する子供の数の８割ほどが流出しました。そして、ほぼ、高校全入時代になるとここにある県立木本高等学校の卒業生４００人全部の分くらいは流出し続けました。これは今も続いています。

これだけの流出を半世紀以上続けて、人口は２００００人まで減少しました。これだけの減少で済んだのはひとえに寿命が延びて行ったからです。

私が小学校に入った頃に始まった『敬老会』なんてのは６０歳から招待されていました。

それが、６５歳になり７０歳になり…どんどん伸びて、木本町等は７５歳にならないと呼んで貰えないとか…

世話をする地元の婦人会の人たちも、若い嫁さんなど居なくなって、６０歳を越えるような人ばかり…一昔前の『老人会』みたいなものです。

『老老介護』などと言う言葉がありますが、『敬老会』もその様相を呈しているようです。

『介護』の方でも、すでに年金受給者である人がヘルパーや運転手で活躍しています。自分より若い人の介護をする状態です。

かくかように田舎の人口構成は変わっています。

中心地の木本町は間口が狭く奥行きばかりの宅地ですから、建て直しもしにくいので、買い手も中々付かなくて、空家と空き地が増える一方です。

山間部では三反百姓にも満たない棚田しかないから、それでは飯は食えないし、山林も駄目…出てゆくしかないので急速に過疎が進み、『限界集落』が続出です。田地田畑まとめても買い手が無い状態です。

これは、日本中の田舎で共通して見られることですね。

さて、ここ熊野市では、私立金山小学校が移転した跡地利用で、『宅地分譲』をするそうです。
その名も『金山定住促進団地』とやら…
山の中腹、地盤もしっかりしている所です。
たとえ、地球の温暖化が進んで海面が１０ｍ上昇しても関係ありません。
映画のような数十メートルの大津波が襲ってきても下界の話です。
実に環境の良い所です。
おそらくこの事業であれば、補助金もあったでしょう。過疎債の発行も無条件で出来ます。
しかし…
なんだか変ですねえ…
官費を持って民間を圧迫する…
地方公務員ではなく高級官僚の考えそうなことです。

今の熊野市のトップは故郷に錦を飾った東大卒です。

そうそう、まだ、売り出しの要綱などは決まってないようですが、熊野に移住されることをご希望の方は、購入をご検討ください。
『熊野市土地開発公社』　　0597-89-4111　内線 314　までどうぞ・・・

Tags:熊野市 昭和 モノクロ　　金山小学校　　by **je2luz** | 2007-12-29 11:55 |

2007 年　12 月　30 日

熊野の旅　明日の晩は・・・１００円の価値

明日の晩は徹夜になる方も多いことと思います。
そして、明日の晩から正月三が日は、一年のうちで一番『百円玉』が価値を持つ時期です。

『１００円玉』も『１００円ショップ』で物が買えない硬貨なのですが、この時期になると活躍します。

『お賽銭』です。
１０円ではいくらなんでも…５０円玉って意外と持っていない…５００円も同様です。
千円は札ですから賽銭箱に投げ込みにくい…
ポケットにあって、一番手頃なのは『１００円玉』ってことになるのです。

この『１００円玉』はこの時期には、ものすごく良く働きます。
『家内安全』だと、家族の数も減っていますから一人頭にするとまあまあの額でしょうか？
『五穀豊穣』は最近お願いする人はめっきり減ったようですね。
『恋愛成就』なんてのは。明治神宮とか有名神社の定番の一つでしょう。これもかわいいものです。
『学業成就』これも、受験期の年齢の人は神頼みしたくなるのも当然でしょう。
『交通安全』これは切実な問題でしょう。
『世界平和』に『地球環境』……
果ては、『満願成就』なんて漠然、広大な物まで…
どんどん、願いが広くなります。
なにせ、『消費税込みの１００円』で、これらの願いを三つも四つも…
これほど、１００円玉が価値を持つ時期は他にはありませんね。

それでも、『ちりも積もれば…』
日本中で供えるお賽銭の額は天文学的数字になります。
一人一人がばらばらに、口の中でぶつぶつと唱えた願い事も、ほとんどが似たり寄ったり…
神様、仏様がきちんと分類してくれれば、ものすごく大きな声になっていることと思います。
そして、一種あたりのお賽銭も大金になると思います。
きっと、願いはかなえられるでしょう。
ぜひ、初詣の時は普通のお願いに統一して置いてください。
百円で一杯並べても良いですから…

Tags:熊野古道 熊野市 モノクロ　　by **je2luz** | 2007-12-30 11:54

2007 年　12 月　31 日

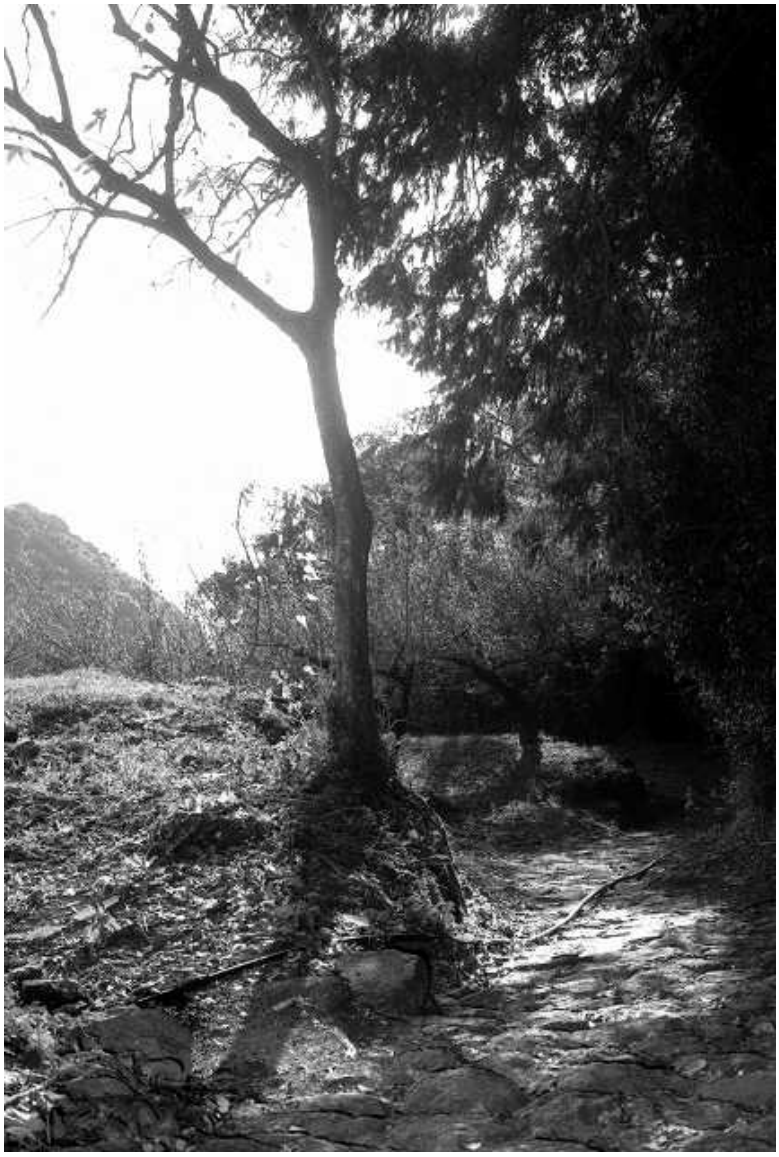
熊野の旅　行く年・・・２００７年

２００７年も、あと半日です。
ぽつぽつ休みながら今年もごちゃごちゃ書き続けました。
『熊野古道においでください』などと書いたり…
まあ、半分以上は悪口だったりしますが…

たくさんの方に読んでいただけて幸いです。

２００８年にはもう一度紀州路を走って写真を撮ってきます。
ガソリンが高いので串本までになると思いますがね（笑）

今年もありがとうございました。



Tags:熊野市 熊野古道 モノクロ

by **je2luz** | 2007-12-31 11:10